

# GSEドイツチーム受入報告

研究グループ交換委員会 委員長

田中 義久 (大阪西RC)

2013年3月30日関空に到着したドイツ・ハンブルクチームの団長と4名のメンバーは、1ヶ月の職業研修を終えて4月30日夜、無事帰国の途に就かれました。

滞在中、第2660地区の多くのロータリアンのお世話になりました。今回は、ドイツチームの要望で例年より5日程度長い行程でした。

GSEプログラムは、受入・派遣の大筋は地区委員会が設定するのですが、プログラムの詳細部分、たとえば、「何日の午前中の文化研修は〇〇RCが△△につれていく」というような細かい部分は、各RCで決めていただくプログラムです。その際、重複してしまうこともあり、調整が必要となります。そのほか様々な局面で、調整や合意形成が必要となりますが、そんな時、ある種の「我」が出てしまいがちです。しかしそのうちそれぞれの「我」が馴染み、うまく調整ができたときには、逆に強い相互協力体制が出来上がるのを経験的に感じており、ロータリーの



素晴らしいと感じる局面です。そんな経緯で生まれるロータリアン同士の共同意識はこのプログラムを越えて今後の活動に大いに役立つことでしょう。

今年の受入プログラムにおいて例年に比べて自由時間を多めに取りましたので、ドイツチームはある程度は満足してくれたようです。それより普通では経験できないような体験ができて、本当に喜んでくれました。

居合道場で日本刀を振ったり、墨を作る工房での実演など日本独特の体験ができたことは大変満足していました。また、職場の現場見学などで日本の職業人の持つ仕事への細やかな思い入れが印象に残ったと言われ、受け入れる側として大変うれしく感じました。

振り返れば、寸前でホームステイ先のキャンセルなど危急のトラブルが発生して困惑しましたが、終わってみれば、全体的には大変素晴らしいプログラムであったと思います。

